

# ふくしま県人会だより

第46号  
令和4年8月  
福島県人会  
北海道連合会

## 福島県人会北海道連合会会長

### あいさつ

福島県人会北海道連合会

会長 近藤 康弘



全道の会員の皆様は御元氣にお過ごしのことと思います。参議院選挙が終わった頃から、新型コロナウイルス感染者が国内で十万人を上回る状態が続き、今後も増加が懸念されています。一刻も早く収まってほしいと願うとともに、第四回目の接種が始まる中、年少者の増加を食い

止めるべく、頑張られている医療関係者に感謝申し上げます。

さて本題に入りますが、第五十回福島県人会北海道連合会総会は書面開催になりましたが、福島県知事感謝状は函館県人会会長の小山直子さんが受彰され、北海道連合会会長表彰は十名の方が受彰され、併せてお祝い申し上げます。

令和元年に旭川県人会の担当で第四十七回連合会総会が開催されて以来、三年連続の書面開催という状況となり、今更ながらコロナウイルスの恐ろしさを実感している次第です。

また詳細は現在協議中ですが、秋の母県訪問の日程も決まり、行程等も検討されていますので、会員の皆様の一人でも多くの参加を期待しています。

併せて、関西福島県人会が進めている第五回全国うつくしま県人会交流会についても、調整が進んでいるところですが、各県人会の参加をお願い申し上げます。

一方、福島県においては十月に現

知事の内堀雅雄氏が三期目を目指して、知事選に出馬表明をされましたので、会員の皆様は全力で応援の声を届けて、大勝利されるように願って行きましょう。

最後に、猛暑日が続き、局地的に大雨が降るなど災害の発生も懸念されますが、私達は健康に気を付けて、二密の回避を守り、会員が明るく楽しく会える日を待ち望みながら頑張ります。

## 連合会の活動

### 第五十回福島県人会北海道連合会総会について

第五十回福島県人会北海道連合会総会は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため書面開催となりました。

次回開催地については、令和三年十二月二十日(月)に開催された役員会での協議結果に基づき、引き続き道東地区に担当していただくこととなりますので、事務局の方で改めて調整させていただきたいと思っております。

また今回、長年県人会の発展に寄与された皆様に、福島県知事、福島県人会北海道連合会会長からの感謝

状が贈られました。うち知事感謝状については、令和四年五月十一日(水)に、函館市の高龍寺にて執り行われた「傷心惨目碑前祭」に先立ち、同会場内にて、受彰者である函館福島県人会の小山会長に、当事務所松浦所長から、贈呈を行いました。

### 【感謝状受彰者】

福島県知事

小山 直子 様 (函館)

福島県人会北海道連合会会長

佐藤 英道 様 (札幌)

佐久間 敏 様 (札幌)

伊藤 俊道 様 (旭川)

吉田 武薫 様 (美幌町)

近藤 苑生 様 (美幌町)

上田 正則 様 (千歳)

桑折 忠男 様 (千歳)

阪本 ちよ 様 (千歳)

半谷 登志子 様 (千歳)

岸本 和香 様 (苫小牧)

# 会員通信

新任会長あいさつ

苫小牧福島県人会

会長 渡辺 健治



突然神野会長より会長辞任の申し出があり、後任を決定すべき時期にコロナ禍で役員会の開催が遅れていたところ、会長が死去され急遽役員会を開催し、協議した結果、四代目の会長を拝命することとなりました。

まだまだ未熟者でありますので、役員、会員皆様のご協力を頂いて県人会の運営に精進して参りますので、宜しくお願い致します。

母親が福島県福島市生まれと言うことで県人会に入会し約二十五年を迎えます。まさか苫小牧生まれの私が県人会会長職につくとは思いませんでしたが、神野会長のふるさと福島に想いを馳せる

情熱を引継ぎ、会員との絆を大切に、同郷の人が気楽に集える県人会の個性を大事にしていきたいと思っております。

この二年間コロナ禍で全ての事業活動がやむなく中止でありましたが、今年は県人会最大のイベントである「とまこまい港まつり」が三年ぶりに開催される運びになり、郷土の果物の「もも」・「ジューズ」等の販売が実施可能になり、少しでも郷土の復興支援に役立てればと今から期待を寄せているところであります。

また、会員・家族の親睦と健康維持のため、令和元年に現副会長である吉成氏の発案で、誰もが気楽にできるスポーツとして「パークゴルフ」が計画実施され、現在も会員・家族の交流事業として継続されています。今後も会員相互の親睦交流を図り、会員増強も併せてより一層「ふるさと」の復興を念じ、微力ながら県人会の発展に貢献して参りたいと思っておりますので、ご支援、ご協力をお願い申し上げます。



【「とまこまい港まつり」にて】

県人会の近況について

札幌福島県人会

副会長 清野 昭一

新型コロナウイルス感染症はいつになったら収まるのでしょうか？

この原稿を書いている七月初旬、北海道は徐々に減少に転じており収まる気配が感じられましたが、しかし東京・大阪では増加傾向にあるようです。いずれにしても次から次へと新たな変異ウイルスの出現によつて私たちの生活は感染防止を意識しなければなりません。これまでどおり「手洗い・手指消毒」「マスク着用」「身体的距離の確保」「三密の回避」などを励行することが大

切です。

さて、札幌福島県人会では、令和三年総会は書面表決として開催しませんでした。が、令和四年は「まん延防止等重点措置」が解除となっていた一月二十二日(日)に開催しました。出欠締め切り日以降当日まで、仕事の都合や体調不良などで若干の欠席者があったものの、大きな宴会場で、充分な間隔を空けて着席し、使用するマイクは都度消毒するなど、ホテル側の一方ならぬご配慮をいただきながら、十九人が出席して開催することができました。

その後の年間計画に基づく各種会合は、今のところ開催には至っておりませんが、感染者数の推移を見つつ、各種対策を講じながら計画を実行に移していきたいと考えております。

また、私は五月二十二日にホテル網走湖荘で開催が予定されていた今年の北海道連合会総会には是非とも参加したいと考え、三月一日にJALウルトラ先得運賃(丘珠⇄女満別 往復12600円)で予約し、チケットを購入しました。しかし、三月三日に「総会は書面開催となった」との連絡が入り、即キャンセルすることになってしまいました。

一日も早くコロナ禍が収束することを祈りつつ、何ら心配すること

なく会員が集い懇親を深める機会を持てるような、コロナ前の生活を取り戻したいものです。

### 「傷心惨目碑前祭」開催

函館福島県人会

事務局長 島 昌之

函館福島県人会は五月十一日、福島県北海道事務所松浦晃所長と菅野英二主幹兼次長に参列いただき、箱館戦争で犠牲になった会津藩士を慰霊する「傷心惨目の碑」がある国華山高龍寺で碑前祭を開きました。

また、碑前祭に先立ち、松浦晃所長より小山直子会長へ「多年にわたり函館福島県人会の発展に寄与するとともに県民の名譽を高揚された功績により」内堀雅雄福島県知事より感謝状が贈られました。

境内にある「傷心惨目の碑」観光説明板には、『明治二年（一八六九年）五月十一日、箱館戦争最大の激戦が箱館の市街地で行われた。当時の高龍寺は、もつと坂の下にあり旧幕府脱走軍の箱館病院分院にあてられたが、同日、新政府軍の先鋒隊が乱入し、傷病兵らを殺傷して寺に放火し、会津遊撃隊の者が多数犠牲となったという。明治十二年（一八七九年）高龍寺は移転、翌十三年に

旧会津藩有志がこの碑を建て、斬殺された藩士を供養した。』とあります。

函館福島県人会はこれからも会津藩士の冥福を祈ると共に、母県の復興と繋がりを大切に活動して参ります。



【松浦所長から小山会長へ、感謝状贈呈の様子】



【碑前祭に参列した県人会の皆様】

ふるさとの山、川、水

旭川福島県人会

幹事長 圓谷 清

私の出身地は、福島県の蓬田岳（阿武隈高地の中の952mで、平田村・須賀川市・郡山市の境界にあります）、郡山側の標高400m地点の山の中であります。私、昭和三十一年生まれの現在六十五歳であります。実家は開拓農家というところで子供のころはまだ家の周りには太い木々が生い茂り景観が良くなかったですが、親と地域が少しずつ開拓してきて今は、静かな心が落ち着くのどかな山間地域になってます。夏、郡山盆地が暑い中、我が家は涼しく羨ましいといわれています。蓬田岳の展望は我が家からの眺めが一番で、飽きません。実家は自然がいっぱいで何も無いところですが、水だけは恵まれておりまして、蓬田岳からの伏流水↓家から500m山側の標高落差50mあり水

きでして、帰省のたびに水が楽しみのひとつでした。また、川遊びの話ですが、蓬田岳からの清流があり、小学生の頃は川の平坦な地域を子供達だけで堰止め、兄、同・下級生と川遊びをし、夏の暑い時期の楽しい思い出となっています。川遊びに夢中になっていると時間の経つのも忘れ、みんなの口が唇が「ぶんず色」になりながら川遊びをしたものでした。

0m山側の標高落差50mあり水  
庄良で、夏の暑い時は家のトタン屋根と庭に水まきをさせられ、涼しく昼休みをしました。冬季は凍結防止でちよろちよろ出している状態です。水道代はただですね。一年を通して水枯れなく、自然水を飲むことが出来て幸せでした。風呂も、平成二十五年まで五右衛門風呂で薪炊

昭和三十年代後半頃までは、日本全国の川の流れも清く子供たちが元氣よくそしてたくましく川遊びをし、事故の話もなかった（親も暑いから川で水遊びしてこいという調子）ように思います。今の時代とは真逆で、子供に川で遊んでいなどと言ったら、神経を疑われますね。その時代は、兄弟、友と一緒に遊んでのそんな川遊びが懐かしいです。

ふるさとの山、川、水に恵まれたことに、親、兄弟、友に感謝です。



【東北百名山の一つでもある、蓬田岳】

### カルガモ親子

旭川福島県人会

会員 條 元彦

「バチャバチャ」「ガツガツ」と  
よちよち泳ぎで湖面で戯れるカル  
ガモの親子は今日も常磐公園に訪  
れる人々の笑顔を誘っています。

常磐公園は旭川八景と日本都市  
公園百選にもなっている公園で、  
「千鳥が池」と「白鳥の池」を中心  
に大木や低木と大小の草花が散在  
し季節折々の野鳥が飛来します。又  
歴史を讃える石碑、彫刻等、春夏秋  
冬訪れる人々の心を癒やす公園で  
あります。利用者はウォーキングや  
散歩は日常的であり、夏期はボート  
遊び、祭事には露店も出店し一段と

賑わいを増します。

そんな中、初夏の風物詩となれば  
やはりカルガモです。今年は十羽の  
カルガモが誕生し、親子連れで湖面  
を戯れています。でも誕生して元氣  
な雛は良いのですが、群れから離れ  
るとすぐカラスに狙われます。一昨  
年も十一羽の内二羽が犠牲になっ  
た様です。自然の摂理でしょうか。  
今年はまだ元氣な様です。

特に千鳥が池の蓮の花咲く四阿  
付近には、「野鳥には餌を与えない  
で下さい」の看板を横目に餌を撒く  
方が居て、その餌を求めてカルガモ  
親子や他のカモたちも寄ってきて  
競争して餌をついばみます。親ガモ  
は子ガモを守ろうと必死ですが、子  
ガモ達は親ガモに見守られながら  
も、それぞれ「バチャバチャ」「ガ  
ツガツ」とよちよち泳ぎで餌を求め  
ながら潜ったり跳ねたり愛嬌一杯  
に戯れております。それを見学者達  
は「かわいいね」と目を細めて見た  
り、「カラスにいじめられないかし  
ら」と心配したり、カメラでパチリ  
と撮ったり、この時ばかりはカルガ  
モ親子は主人公です。周りのハトや  
カラスは餌を横取りしようと思命  
ですが完全に除け者の様です。

よちよち泳ぎのカルガモは可愛  
いものです。でも次第に成鳥となり  
渡ってまた次世代へとバトンタッ

チするでしょう。真心をもって見守  
りましょう。

### 連合会長表彰受彰に寄せて

美幌町福島県人会

幹事 吉田 武薫

この度は、福島県人会北海道連合  
会より、感謝状を頂き、誠にありが  
とうございました。家族五人で北海  
道へ移住してすぐに福島県人会に  
入れていただき、私も家族を温か  
く迎えてくれ、こちらこそ県人会の  
方々には感謝したいところであり  
ますが、このような立派な賞状まで  
頂き、大変恐縮です。

移住して来た時、小学校に上がっ  
たばかりだった長女は現在高校二  
年生、生まれたばかりだった次女も  
現在小学五年生、農作業の忙しいと  
きは、部活がない日を中心に手伝っ  
てくれる中学二年生の長男と、子供  
たちの成長を大きく実感するとと  
もに、これまで私たち家族を温かく  
見守ってくださった、地域の諸先輩  
方々にも、心より感謝しております。  
それにしてもここ数年、コロナか  
ら始まり、世界情勢の不安定から、  
あらゆる業界に様々な問題が一気  
に降りかかっている気がいたしま  
す。私の仕事である農業においても  
例外ではありません。燃料高騰から

始まり、肥料の高騰、その他様々な  
農業資材が値上がりし、秋には農薬  
も値上がりすること、今後大  
きく農業経営を圧迫することが予  
想されます。しかし、世界どこにい  
ようと、人間は食べ物がなくては生  
きていけません。確かに厳しい状況  
は続きますが、食べ物を作る者の責  
任として、生産を止めるわけにはい  
きません。この厳しい状況を乗り切  
るために、いろいろな方に相談した  
り、教えていただいたり、様々な情  
報収集をし、少しでも経営に生かさ  
うと模索しております。

先人たちが、あらゆる困難な状況  
を乗り越えてきてくれたおかげで、  
今の自分たちの生活があるのだと  
思います。次は私たちの世代が、こ  
こを乗り越え、子供たちの世代に良  
い形でバトンを渡さなければなり  
ません。そのために、県人会の先輩  
たちが身をもってお手本を示して  
くれた、常に笑顔で、明るく前向き  
な行動を、私自身が強く意識してい  
かなければならないと感じていま  
す。

## 福島県からのお知らせ

全国新酒鑑評会にて、  
福島県が史上初となる

「金賞受賞数九回連続日本一」  
を達成しました。

独立行政法人酒類総合研究所が  
開催している令和三酒造年度「全国  
新酒鑑評会」において福島県から三  
十二銘柄が入賞し、そのうち十七銘  
柄が金賞に選ばれました。

今回の鑑評会において、福島県の  
金賞受賞数は、二位の秋田県に四銘  
柄の差を付け、堂々の全国一位とな  
り、また今回の記録によって、「金  
賞受賞数九回連続日本一」（通算十  
一度目）を達成しました。

福島県は平成二十四酒造年度か  
ら、全国新酒鑑評会における金賞受  
賞数日本一の連続記録を伸ばし続  
けており、今回もまた、その記録を  
更新することとなりました。（なお、  
令和元酒造年度については、新型コ  
ロナウイルスの影響で、最終審査の  
決審自体が中止となり、金賞は選定  
されませんでした。）

引き続き、「ふくしまの酒」を応  
援くださいますよう、よろしくお願  
いいたします。



【美幌町県人会 前崎副会長から、吉田幹事へ  
連合会長表彰状贈呈の様子】

## 新会員の紹介

苫小牧福島県人会

中村 悦子 様(出身 喜多方市)  
中村 守 様(出身 喜多方市)

千歳の五島洋子(母)より声を掛  
けられ苫小牧の県人会に入会させ  
ていただくことになりました。  
色々お世話になりながら活動さ  
せて頂きます。

家族で入会できると聞きました  
ので、主人と入会しました。よろし  
くお願いいたします。



【令和三酒造年度金賞受賞酒】

くだもの消費拡大委員会による

北海道でのものPRが  
実施されました。

令和四年七月二十日(水)から二  
十一日(木)の二日間、北海道内(旭  
川市・札幌市)にて福島県くだもの  
消費拡大委員会によるものPR  
が実施されました。福島県からはミ  
スピーチキャンペーンクルー(島崎  
茜さん、佐藤郁実さん)をはじめ、  
主要産地である伊達市や桑折町、全  
農福島県本部、ふくしま未来農業協  
同組合が来道しました。新型コロナ  
ウイルスの影響により、例年実施さ



【札幌中央卸売市場表敬訪問の様子】

れていた懇親会関係は中止となり  
ましたが、マスク等の感染防止対策  
をした上で、市場や関係機関を訪問  
し、旬を迎える福島県産もののおい  
しさをPRしました。

また、札幌福島県人会の稲村会長  
及び大山事務局長、旭川福島県人会  
の佐藤会長及び圓谷幹事長にも、各  
市役所への表敬訪問の際に、それぞ  
れご同席いただき、産地側との懇談  
等を行っていただきました。

サッポロファクトリーでの  
県産ももPRイベントについて

令和四年七月二十九日(金)から  
三十一日(日)まで、サッポロファ  
クトリーで県産もも等の販売及び  
PRイベントを開催しました。

旬を迎えた福島県の主力品種「あかつき」や、冷やした桃ジュースなどが飛ぶように売れ、特に初日は開始してから一時間も経たずに、用意していた全ての商品が完売となっていました。

ご来場いただいた方からは、「福島のものが好き」、「このイベントを毎年楽しみにしている」などの嬉しいお声を多数いただきました。また、中には、福島県の出身であったり、ご家族がいらつしゃったりと、ゆかりのある方も多く、「札幌で福島県のイベントが開催されているのは嬉しい」とのお声もいただきました。札幌福島県人会の皆様も含め、多くの方にご来場いただき、誠にありがとうございました。



【販売ブースの様子】

道北アークスでの「ふくしまプライド。」フェアが開催されました。

令和四年八月五日（金）から八月七日（日）にかけて、旭川市及びその近隣市町村のウエスタン、アークス、ビッグハウスにて、福島県産のものも米の推奨販売を行いました。そのうちウエスタン三店舗では、土日にかけてガラポン抽選会も実施され、多くのお客様に楽しんでいただきました。

また、旭川福島県人会の皆様にも各店舗に足をお運びいただきました。誠にありがとうございました。

## 新任職員紹介

福島県北海道事務所 所長

松浦 晃

（出身 福島市

※飯坂温泉です）



四月から北海道事務所長に着任しました松浦と申します。

妻と娘（小学四年生）を福島に残し、札幌市で単身赴任をしています。

北海道には学生の頃、卒業旅行として初めて訪れて以来（当時約三十年前！）の思い出の場所は函館の夜景、札幌ラーメン横丁、多和平の星空、カムイワツカの滝（etc）、仕事を含めて幾度も訪問していましたが、こうして住むこととなり、改めて北海道の美しさや広大さを感じ、また知らないことの多さに戸惑いしつつも、心躍らせているところです。これまでお会いした県人会の皆様から、コロナ禍においても当地でがんばっていらつしゃること、ふるさとを思う気持ちなどお聞かせいただきました。皆様のお気持ちに答え、また御協力もいただきながら、福島県産農産物のPRや観光誘客を始め、ふるさと福島が一步ずつでも復興、伸展するよう精一杯取り組んでまいりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

※写真は稚内市 北方防衛に従事した会津藩士が眠る「旧藩士の墓」にて

## 編集後記

とまこまい港まつりに参加して

令和四年八月五日（金）から八月七日（日）にかけて、苫小牧市で開催された「とまこまい港まつり」に苫小牧福島県人会が出店し、福島県産も等の販売を実施しました。北海道事務所からも、松浦所長をはじめ、事務所員が販売支援のため参加させていただきました。

港まつりでのものの販売を知っているお客様も多く、三年ぶりの開催を待っていたというお声も伺いました。

改めて県人会の皆様の手助けを見ることができ、貴重な機会となりました。ありがとうございました。

